

2026年7月3日

お米支援活動 現場レポート

株式会社ヤオコーでは、2020年9月、埼玉県、埼玉県社会福祉協議会、アサヒロジスティクス株式会社のご協力のもと、埼玉県内で生活にお困りの子育て世帯を対象としたお米の支援を開始しました。その後、2021年3月に「一般財団法人ヤオコー子ども支援財団」を設立し、同年9月より本財団がこのお米支援の活動を引き継いでいます。さらに、2023年3月には公益財団法人へ移行し、現在は公益財団法人ヤオコー子ども支援財団が主体となって、毎月1回、埼玉県福祉部子ども支援課を通じて、NPO法人埼玉フードパントリーネットワークおよび一般社団法人埼玉県子ども食堂ネットワークのご協力のもと、県内各地のフードパントリーや子ども食堂へお米をお届けしています。物流拠点での荷受けや仕分け、配送、現地での配布まで、多くの関係者が連携しながら現場で支援活動が行われています。また、2025年5月からは、一部メーカー様のご協力により、賞味期限間近の商品をご提供いただき、お米支援とあわせてお届けする取り組みも始まりました。

現場の状況に応じて工夫を重ねながら、支援の幅を広げています。

※2026年より4*₀×250袋

お米の支援		配布エリア	個数	＊ ₀ 数	子ども食堂	フードパントリー	配布団体の合計
56	2026年4月	加須市	250	1,000	45	8	53
57	2026年5月	川口市	250	1,000	16	12	28
58	2026年6月	三芳町	250	1,000	17	10	27



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

2026年4月 加須市エリア 250袋 1,000kg



4月は児童養護施設「愛泉寮」のスペースをお借りして、お米支援を実施いたしました。

愛泉寮は、乳児院、児童養護施設、保育所、学童、老人ホームなどを併設する地域の福祉拠点として、多くの方々を支えている施設です。当日は、子どもたちの生活リズムに配慮しながら、丁寧に支援物資の搬入を行いました。

また、地域ボランティアの皆さまにもご協力をいただき、支援活動を円滑に進めることができました。ボランティアに参加しているヤオコー加須店のパートナーメンバーからは、「店舗で使用している紙袋が、ボランティア団体での食品の仕分けや配布時に大変役立っている」とのお話もあり、日頃の取り組みが地域支援の現場につながっていることを改めて実感いたしました。

利用者の皆さまからも喜びの声をいただいております。今後も地域の皆さまと連携しながら、子どもたちと地域福祉を支える活動に取り組んでまいります。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

2026年5月 川口エリア 250袋 1,000kg



5月は、お米支援にあわせ、アサヒ飲料株式会社様より「カルピスコンク」をご提供いただきました。アサヒ飲料様には、ボランティア団体様への直接寄付という形でご支援をいただいております。当財団のお米支援と同じタイミングで、中間拠点スペースへ商品をお届けいただいております。こうした連携により、各支援先への円滑な配布につながっております。

また、賞味期限が近い商品につきましても、3社の皆さまよりご提供をいただき、必要とされるご家庭や子どもたちへお届けすることができました。

今回は、川口エリアへの支援に加え、登録世帯数の多いさいたま市内のボランティア団体の皆さまにも食品をお渡しし、多くのご家庭へ配布いただく予定となっております。

日頃より、継続して食品をご提供いただいております企業・団体の皆さまに、心より感謝申し上げます。

賞味期限が近い商品であっても、支援を必要としているご家庭にとっては大変ありがたい支援となっております。「もったいない」を「ありがとう」に変える取り組みとして、現場でも大変喜ばれております。

皆さまからの温かいご支援により、今月も無事に支援活動を実施することができました。



公益財団法人

ヤオコー子ども支援財団

2026年6月 三芳町エリア 250袋 1,000kg



今回のお米支援では、お米に加え、ヤオコー×COEDO ビールコラボ商品の売上の一部を活用した寄付として、ヤオコーPB商品のスープ6種類、1,040個をご提供いただきました。

また、食品メーカー5社様より、賞味期限が近づいた食品として、お菓子や乾麺など671個をご寄付いただきました。今回お預かりした食品は合計1,711個となります。

当日は、上板塑性株式会社様のご厚意により駐車場をお借りし、荷卸し作業を行いました。気温30度近い暑さの中での作業となりましたが、多くのボランティアの皆様にご協力いただき、お米や食品を次々とトラックから降ろしていきました。

参加されたボランティアの皆様の中には、長年地域活動に携わってこられた方々も多く、互いに声を掛け合いながら手際よく作業を進めてくださいました。

当財団では、食品ロス削減と生活支援の両立を目指し、企業・団体・地域の皆様と連携しながら支援活動を行っております。